

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人 野性動物救護獣医師協会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するための活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

「傷病野生動物救護～救護センターの整備を目指して～」シンポジウムの開催

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

応募申請書に記載のもので可。

傷病野生動物救護及び環境保全の活性化に必要な、知識の普及と実践力の向上、そして人々の共通認識の醸成をします。これらを実現するためには、獣医師を始め、多くの市民や企業からの理解と協力が必須となるため、その普及・啓発の契機として本プロジェクトを企画します。さらに、東京多摩地域に他に先駆けたモデルとなるような救護センターの設置を目指していくことで、新しい体制づくりの流れを全国各地に広めてゆきたいと思えます。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

傷病野生動物救護活動の流れと役割分担、それに現実問題点をそれぞれの分野で日本の代表的な経験者を講師に迎えた。そのため、現場体験が主体のため、視覚的、直接的な解説が多く、受講生は理解しやすかったのではないかと。また、動物愛護から動物福祉への転回も説明。自然界で生活し、繁殖できてはじめて放鳥獣である。また、救護活動より人為的事故防止がより重要と説明した。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

日本の現在のトップレベルの講師を選出し、早めに獣医師雑誌、獣医科大学、関連専門学校、都庁、環境省に案内状やポスターを配布し、掲示をお願いした。日本獣医師会の学術認定団体の資格をとり、生涯学習講習会とした。そのため宮城から沖縄まで参加者があり、定員オーバーとなり受講できない人もいた。また、環境省、地方獣医師会の後援も得た。東京都鳥獣保護員の講習会認定も受けた。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

講師の選出とPR効果で、予定を越える参加者があった。内容も具体的で先進的な話が多く、受講者に感銘を与えた。民間救護センター開設者の多くが仙台、神奈川、大阪、福岡などから参加したので、救護の共通認識化が出来たのではないかと。環境省、東京都の担当職員の参加もあり、行政の指導力や、協力が今後の課題として残った。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

Shinjo プロジェクト助成事業 「野生動物救護の現状と今後の課題」シンポジウム
平成 21 年 9 月 27 日(日) 13:00～ 於：アミュー立川第一会議室

野生動物救護の最前線で活躍されている大阪、北海道、神奈川、東京の先生方を講師としてお招きし、最新の情報を講義していただきました。WRV 会員、獣医師、鳥獣保護員、獣医学生その他、東京都、環境省からもご参加いただき、64 名が受講されました。少しでも多くの方に現状、問題点、今後の課題などを知っていただき、今後の野生動物救護活動のお役に立てればと願っています。会場の関係で参加出来なかった方々にはご迷惑をお掛けしました。今後も傷病野生動物救護に関わる獣医師等に、知識、技術の普及に努めていきたいと思っております。豊かな自然が次世代に受け継がれる事を念じております。

会場内の風景

